

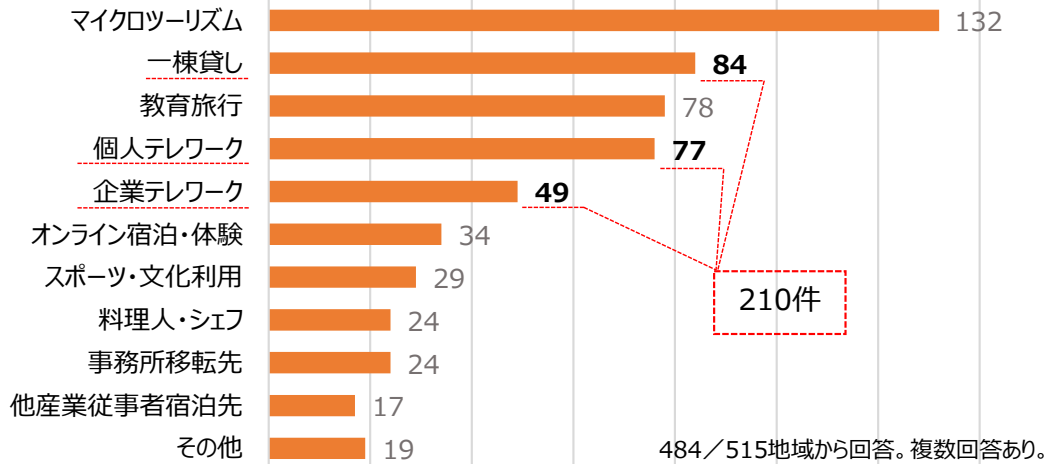
農泊地域におけるワーケーションのニーズと事例

- 農泊におけるウィズ・コロナ、ポストコロナ社会の新たなニーズについて、寄せられているニーズや農泊地域が見据えるターゲットを調査※。
※令和元年までに採択した515地域にアンケート調査し、うち484地区から回答。

農泊地域へのニーズ

- ・テレワーク、1棟貸し等のワーケーション、リモートワークに関連して、210件の問合せがあった。
- ・また、感染リスクの観点からマイクロツーリズムへの問合せも多い。

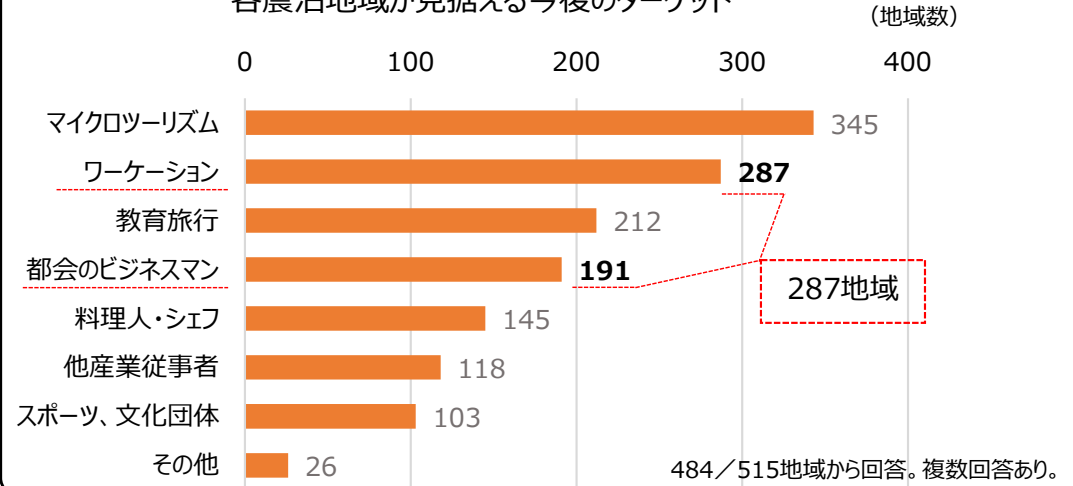
新型コロナウイルス発生以降の問合せ内容



今後のターゲット

- ・今後は、ワーケーションや都会のビジネスマンをターゲットにしたいと考えている農泊地域は287地域となっている。
- ・また、マイクロツーリズムは、345地域となっている。

各農泊地域が見据える今後のターゲット



農泊地域におけるワーケーション事例 <蔵王農泊振興協議会（宮城県蔵王町）>

- ・1棟貸し宿泊施設は、無線LANを完備し、ワーケーションに適した宿泊施設。
- ・コロナ禍の状況の中で、これまでワーケーション目的で6組(計340人泊)を受入。(R2年4月～R2年8月)
- ・宿泊者は、長期滞在し、レジャーを楽しみつつ、リモートワークを実施。

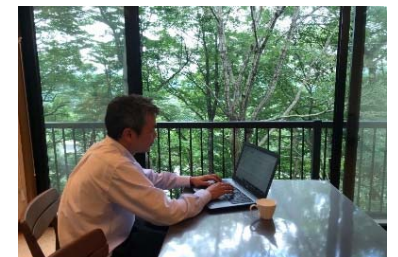
宿泊者（居住地）	宿泊人数	属性	宿泊日数
邦人（東京）	大人3名	職場同僚	30日
外国人（東京）	大人5名	家族	27日
邦人（千葉）	大人2名	夫婦	14日
外国人（東京）	大人2名、子供2名	家族	12日
邦人（東京）	大人2名、子供1名	家族	7日
外国人（東京）	大人2名、子供1名	家族	6日



内装



外観



リモートワークの様子